

令和7年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立小池小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・身近な材料や素材を用いて表現する題材を増やしたことにより、多くの児童が主体的に材料に関わり、発想や構想の段階から意欲的に取り組むことができた。
- ・手や体全体を働かせて材料や用具に関わりながら表したいことを見付け、つくり出す喜びを味わうことができた。

(2) 課題

- ・低学年の児童の中では、はさみの使い方や、のりを適量使って接着するなどの技能面に課題が見られた。また、良いと思った友達の真似をすることで、表現が同じになってしまう傾向がある。自分なりの表現ができるようにすることや、自分の表現の良さに気付かせることが課題である。
- ・中学年は、造形活動に意欲的に取り組むことができるが、表したことから、更に考えて表現をよりよくするために工夫するなど、考えを深めることやより良いものをつくりたいと発展させて考えることについて課題がある。
- ・高学年では、一部の児童の中に、失敗を恐れて、自分ができる範囲内で表現をまとめたり、教員に表し方を聞き、手本や助けがないと表現に自信がもてなかったり、タブレットを見て模写することで作品を完成させようとする児童の姿がある。自ら考え、試行錯誤しながらどのように主題を表すかについて考えることに課題がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○手や体全体の感覚を働かせて材料や用具を使うことができるよう、発達段階に合わせて、児童が興味をもって取り組める材料や用具の使い方を提示し、楽しみながら技能を身に付けられるようにする。	○友達の活動や、作品の中からよさを見付け、『真似る』は『学ぶ』につながることも伝えつつ、自分の活動や表現の良さにも気付けるよう、活動や鑑賞の方法を工夫する。	○一人一人の活動や、作品のよさを認める声かけを増やし、それぞれの児童が自分の表現に自信をもち、思いをもって活動に取り組めるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○児童が様々な素材や用具に親しみ、それらの特徴を生かしながら自分の表してみたいことを表現する機会を設定すると共に、前学年までの経験を生かして工夫して表せるように、既習事項を想起させたり、これまでの学びを振り返	○児童が、自分の表したいことから更に発想や、見方や感じ方を広げることができるよう、題材や活動の流れや、発想の広げ方についてICTを活用しながら工夫して提示する。	○児童がすすんで表現したり、鑑賞したりする活動に取り組む、つくり出す喜びを味わうことができるよう、題材の提示や、活動の流れを工夫する。

らせる声かけや、提示をしたりする。		
-------------------	--	--

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○表現方法に応じて材料を選んで活用するとともに、前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かすことができる題材設定をし、創造的につくったり表したりすることができるようにする。	○ICT 機器を活用して表現と鑑賞を関連付けて行ったり、抽象的な形から発想を広げる活動を設定したりして、造形的な見方や感じ方を広げることができるようにする。	○提示したおおまかな学習の流れの中で、児童が自ら学習計画を立て、すすんで表現活動を行えるよう、題材の提示や活動の流れを工夫する。